



®環境省

エコアクション21  
認証番号0000769

# 環境経営レポート

【2023年度版】



株式会社 **オークマ**

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

【2024年7月3日発行】

# 目次

1. 組織の概要	3
2. 環境経営方針	4
3. 環境経営計画の実施体制	5
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営計画と実施状況	7
・ 二酸化炭素排出量	8
・ 水使用量	11
・ 廃棄物の排出量	12
・ 化学物質使用量	14
・ グリーン購入	15
・ 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス	16
6. 環境経営計画の取組結果に対する評価	17
7. 次年度の目標	21
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示	22

# 1. 組織の概要

【事業者名及び代表者名】 株式会社オークマ 代表取締役社長 大隈 賢一郎

【所在地】 本社／朝倉工場 〒838-1305 福岡県朝倉市菱野1548

甘木工場 〒838-0026 福岡県朝倉市柿原567

宝珠山工場 〒838-1702 福岡県朝倉郡東峰村大字福井964

【会社URL】 <http://www.o-kuma.co.jp>

【事業内容】 住宅用木製ドア及び造作材の設計・製造

【事業規模】



	全社合計	本社・朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
敷地面積	68,723m <sup>2</sup>	22,451m <sup>2</sup>	18,847m <sup>2</sup>	27,425m <sup>2</sup>
延床面積	29,110m <sup>2</sup>	11,680m <sup>2</sup>	6,432m <sup>2</sup>	10,998m <sup>2</sup>
従業員	197名	106名	42名	49名

【対象範囲】 全組織・全活動

# 環境経営方針

### 基本理念

株式会社オークマは、「快適な暮らしと価値ある製品創り」「伝統の継承と新たなる挑戦」「家族と地域に愛される会社作り」を掲げ、全従業員の環境負荷に対する意識高揚を図り、環境保全活動への取り組みを積極的に進め、持続可能な社会実現に努めます。

### 行動方針

- 環境に関する法規制を遵守します。
- リデュース・リユース・リサイクルに積極的に取り組み、処分量の最小限化と省資源化を推進します。
- 環境配慮型事業を積極的に推進します。
- 化学物質の適正な使用と環境負荷の少ない代替製品購入に努めます。
- 限りある資源の効率的な活用に努めます。
- 環境経営方針達成のために目標を設定し、具体的な環境活動計画を策定し、その状況の定期的な評価と見直しを行い、全員参加で継続的な改善を行います。

2019年4月1日（改訂）

株式会社オークマ  
代表取締役社長

大隈 賢一郎

# 3. 環境経営計画の実施体制

2023/4/1改訂

## EA21実施体制 2023年度

### <体制>

環境経営システム 最高責任者	代表取締役社長 / 取締役副社長
-------------------	------------------

環境経営システム 管理責任者	総務部 部長
-------------------	--------

推進委員会	<役員>	取締役副社長
	<本社 / 朝倉工場>	製造課 係長
	<甘木工場>	品質技術課 課長
	<宝珠山工場>	品質技術課 課長

事務局	品質技術部 マネージャー
-----	--------------

管理責任者	<本社 / 朝倉工場>	朝倉工場 工場長
	<甘木工場>	甘木工場 課長
	<宝珠山工場>	宝珠山工場 次長

推進責任者	<本社 / 朝倉工場>	製造課 係長
	<甘木工場>	品質技術課 課長
	<宝珠山工場>	品質技術課 課長

### <役割>

#### <環境経営システム最高責任者>

- (1) 環境経営システム管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。当該責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。
- (2) 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器設備・技術技能を含む)を準備する。
- (3) 環境経営に関する基本理念・長期戦略・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。
- (4) 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要であれば改訂を指示する。

#### <環境経営システム管理責任者>

- (1) 環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために、環境経営に関する委員会組織を運営する。
- (2) 環境経営システムの構築と運用を円滑に行い、最高責任者に見直しのための情報として、その構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。

#### <EA21推進委員会>

- (1) 3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を審議する。

#### <EA21事務局>

- (1) EA21文書及び記録類の作成・維持・管理。

#### <管理責任者>

- (1) 自己の管理範囲内における管理責任者として、全員参画による環境経営システムの運用及び管理の責務を負い、部署内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。

#### <推進責任者>

- (1) 自己の管理範囲内における環境推進責任者として、全員参画による環境経営システムの運用及び管理の責務を負い、部署内の担当者の選任・必要な教育訓練、パフォーマンスの向上を図る。

## 4. 環境経営目標

環境経営目標(中期2021～2023目標及び2023年度目標)

項目	評価 単位	2020年度 (基準値換算)	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標
【1】 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	1,816,724	1,798,557	1,780,390	1,762,222
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【2】 廃棄物排出量の削減	ton	833	825	817	809
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【3】 水使用量の削減	m3	7836	7758	7680	7602
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【4】 化学物質使用量削減	kg	❖ 化学物質含有量の少ない代替品への変更を積極的に進めていく			
【5】 グリーン購入	品目		❖ 発注時の代替品を常に検討する	❖ 発注時には代替品を常に検討する	❖ 発注先を複数にして検討品目の幅を広げる
【6】 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス			❖ 再生資源を多用できる設計開発 ❖ 地域への貢献活動推進	❖ 再生資源を多用できる設計開発を進める ❖ 地域への貢献活動推進	❖ 設計時の資材構成を常に見直す ❖ 地域貢献活動の継続

※2015年度よりCO2換算係数の変更(調整後排出係数=0.598kg-CO2/kWh 九州電力2014年度実績)

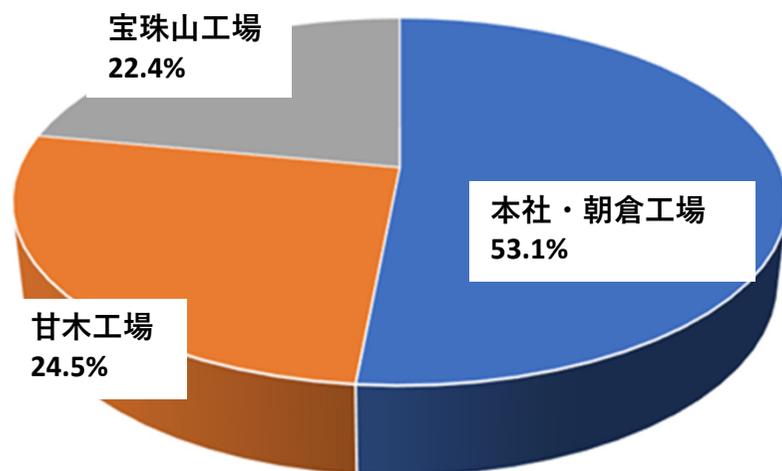
作成日:2023年4月1日  
代表取締役社長 大隈 賢一郎

## 5. 環境経営計画と実施状況

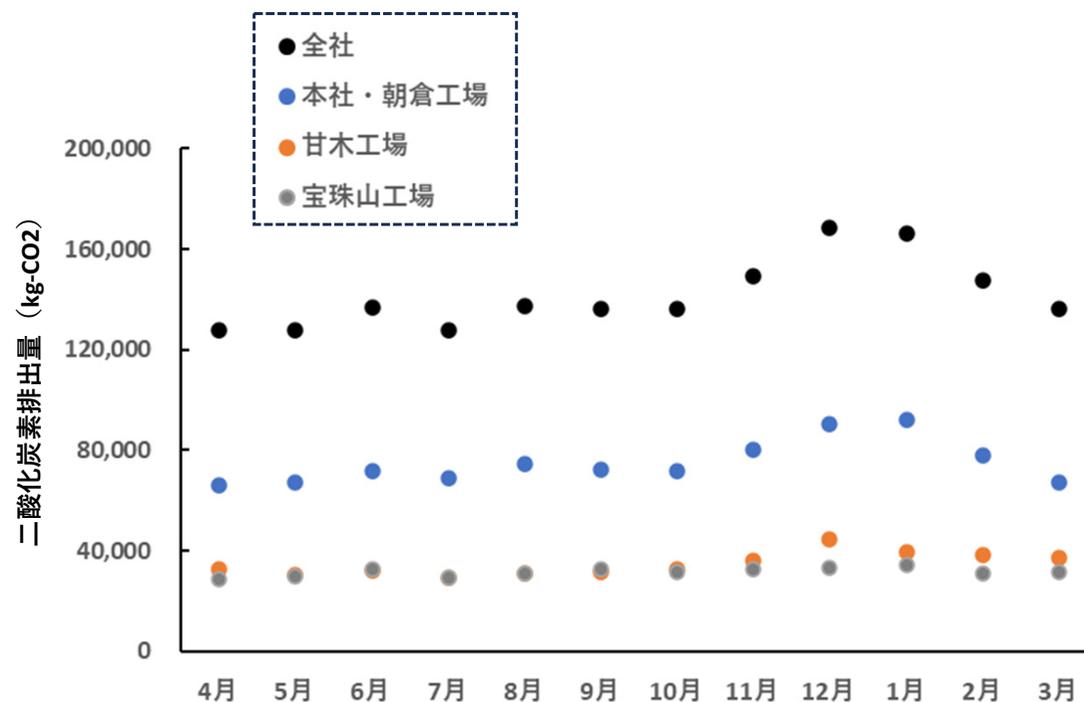
			2020年度	2021年度			2022年度			2023年度		
			実績（基準値）	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	電気使用量 単位：kWh	本社・朝倉工場	1,151,929	1,267,123	1,202,517	105.4%	1,254,326	1,265,251	99.1%	1,241,484	1,282,530	97.0%
		甘木工場	743,293	817,624	696,754	117.3%	809,366	705,418	114.7%	801,107	658,561	122.0%
		宝珠山工場	521,989	574,190	631,012	91.0%	568,391	646,507	87.9%	562,590	548,739	103.0%
		合計	2,417,211	2,658,937	2,530,283	105.1%	2,632,083	2,617,176	100.6%	2,605,181	2,489,830	104.6%
	化石燃料 単位：L	本社・朝倉工場	47,862	52,649	47,457	110.9%	52,118	40,699	128.1%	51,585	54,640	94.0%
		甘木工場	6,725	7,398	6,181	119.7%	7,324	8,922	82.1%	7,249	8,930	81.0%
		宝珠山工場	21,747	23,922	19,403	123.3%	23,680	21,995	107.7%	23,438	20,421	115.0%
		合計	76,334	83,969	73,041	115.0%	83,122	71,616	116.1%	82,272	83,991	98.0%
	合計（kg-CO2）		1,635,052	1,798,557	1,694,055	106.2%	1,780,390	1,742,541	102.2%	1,762,222	1,697,609	104.0%
	水使用量	単位：m3	本社・朝倉工場	4,044	4,447	4,204	105.8%	4,402	4,235	103.9%	4,357	4,575
甘木工場			2,881	3,170	3,467	91.4%	3,138	3,381	92.8%	3,106	3,495	88.9%
宝珠山工場			128	141	119	118.5%	140	189	73.9%	138	72	192.0%
合計（m3）		7,053	7,758	7,790	99.6%	7,680	7,805	98.4%	7,602	8,142	93.4%	
廃棄物排出量	単位：t	本社・朝倉工場	312	344	329	104.5%	340	333	102.2%	337	310	109.0%
		甘木工場	302	333	365	91.1%	329	363	90.7%	326	359	91.0%
		宝珠山工場	136	149	63	237.0%	148	232	63.6%	146	109	135.0%
	合計（t）		750	825	757	109.0%	817	928	88.0%	809	778	104.0%

# 5. 環境経営計画と実施状況：二酸化炭素排出量

## 二酸化炭素排出量



各工場別が占める二酸化炭素排出割合



工場別1か月ごとの二酸化炭素排出量推移

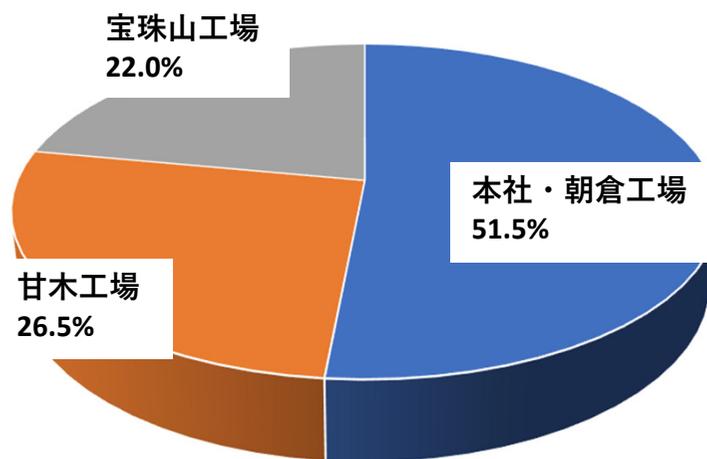
工場別1か月ごとの二酸化炭素排出量

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全社	kg-CO2	128,006	127,733	136,851	127,794	137,159	136,356	136,441	149,313	168,242	166,038	147,575	136,100	1,697,609
本社朝倉		66,386	67,113	71,816	69,158	74,901	72,253	71,955	80,488	90,175	92,335	77,813	67,165	901,558
甘木		32,777	30,689	32,094	29,201	31,337	31,622	32,631	36,116	44,629	39,316	38,462	37,186	416,061
宝珠山		28,843	29,931	32,941	29,434	30,921	32,481	31,856	32,709	33,437	34,387	31,300	31,749	379,990

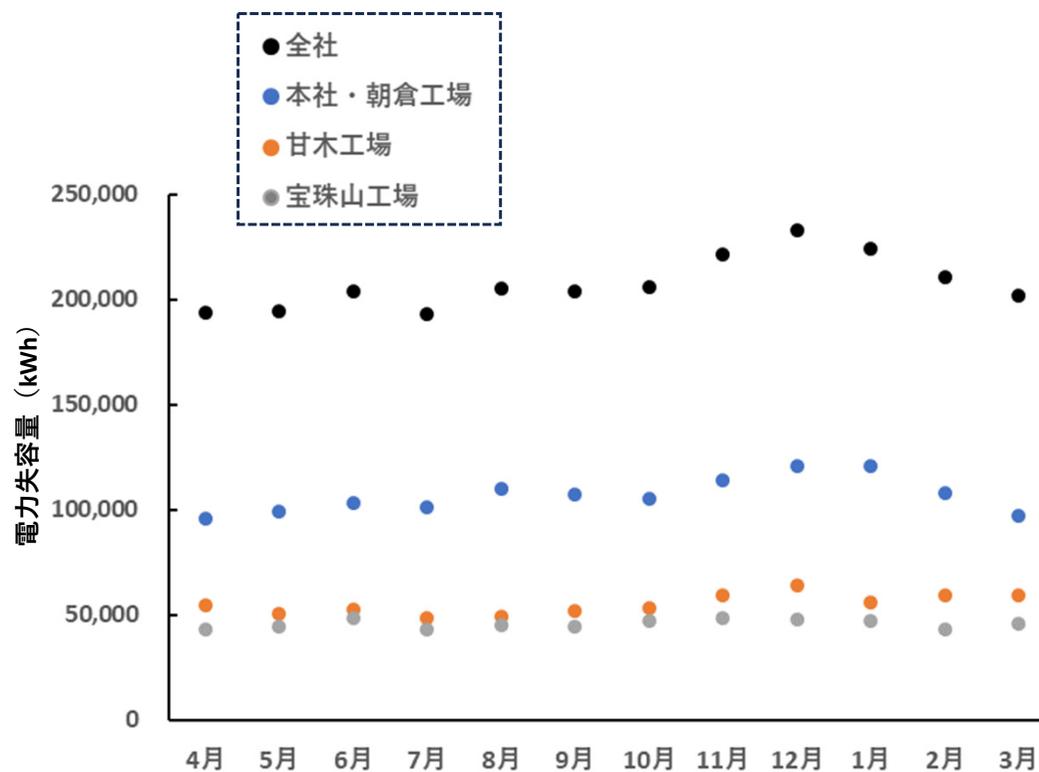
※二酸化炭素排出量は電力と化石燃料の使用量から算出

# 5. 環境経営計画と実施状況：二酸化炭素排出量(電力使用量)

【1】電力使用量削減	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
デマンド管理と日々の実績確認及び掲示	○	○	○
新設備導入と作業計画精度アップによる残業削減	○	○	○
空調機器の定期点検と最適温度管理	○	○	○
エアー配管ループ化によるコンプレッサー稼働軽減	○	○	○
エアー漏れ点検で無駄な運転を抑制	○	○	○



各工場が占める電力使用量割合



工場別1か月ごとの電力使用量推移

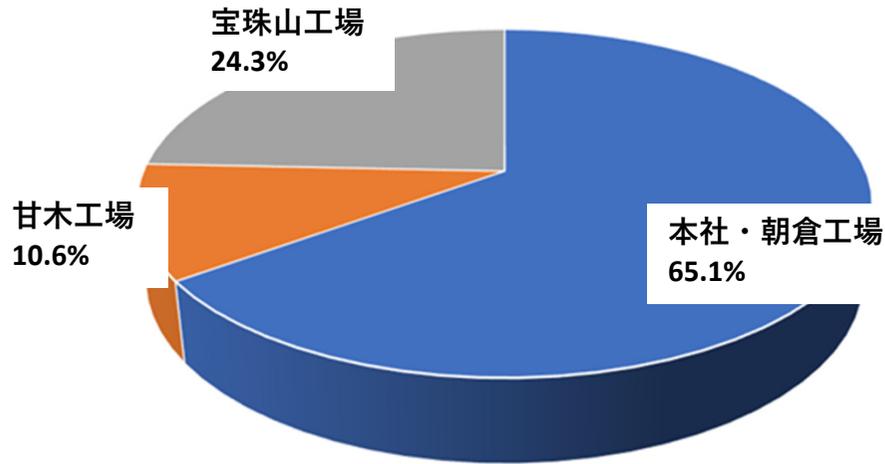
工場別1か月ごとの電力使用量

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全社	kWh	193,465	194,089	203,938	192,857	204,922	204,118	205,558	221,521	232,914	223,875	210,641	201,932	2,489,830
本社朝倉		95,675	99,194	102,997	101,063	109,962	107,401	105,247	114,265	120,952	120,637	107,954	97,183	1,282,530
甘木		54,675	50,294	52,405	48,434	49,550	52,195	53,227	59,029	64,102	56,203	59,297	59,150	658,561
宝珠山		43,115	44,601	48,536	43,360	45,410	44,522	47,084	48,227	47,860	47,035	43,390	45,599	548,739

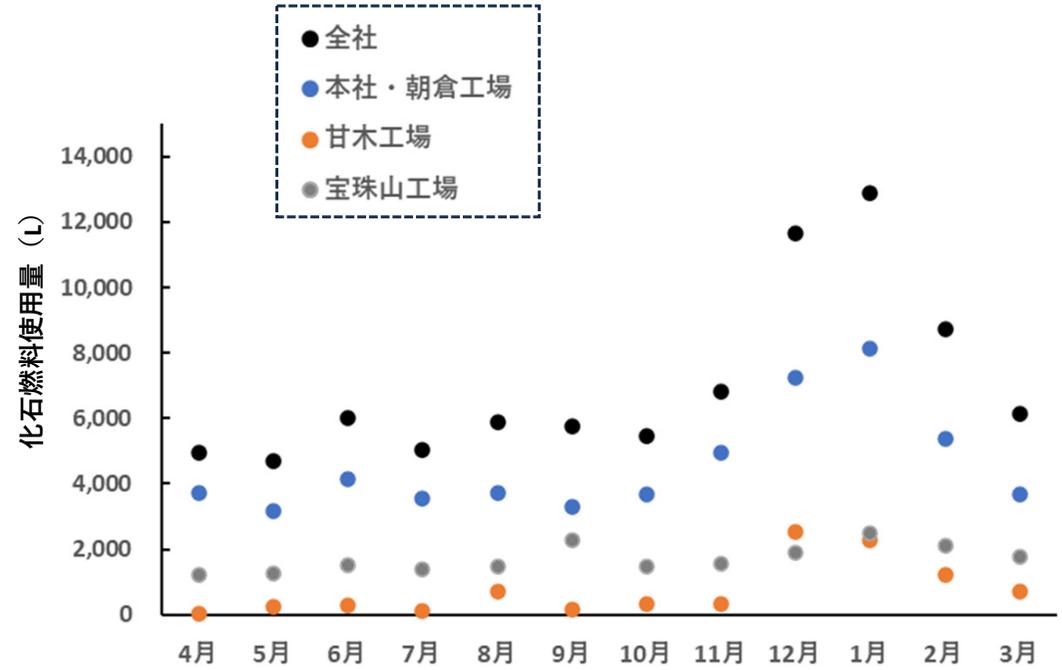
# 5. 環境経営計画と実施状況：二酸化炭素排出量(化石燃料使用量)

## 【2】化石燃料使用量削減

	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
社用車の使用状況の共有化	○	○	○
アイドリングストップの徹底	○	○	○
フォークリフトごとの走行ルートを守る	○	○	○
気温に応じた暖房器具の使用ルール	○	○	○



各工場が占める化石燃料使用量割合



工場別1か月ごとの化石燃料使用量推移

工場別1か月ごとの化石燃料使用量

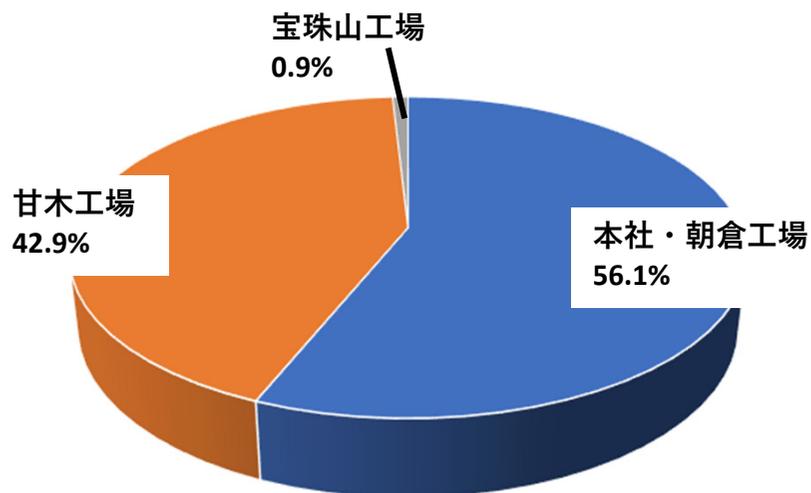
	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全社	L	4,955	4,701	5,989	5,051	5,881	5,745	5,462	6,795	11,670	12,882	8,704	6,156	83,991
本社朝倉		3,716	3,187	4,161	3,561	3,709	3,291	3,678	4,933	7,229	8,132	5,382	3,661	54,640
甘木		32	240	296	102	690	176	322	327	2,551	2,278	1,197	719	8,930
宝珠山		1,207	1,274	1,532	1,388	1,482	2,278	1,462	1,535	1,890	2,472	2,125	1,776	20,421

# 5. 環境経営計画と実施状況：水使用量

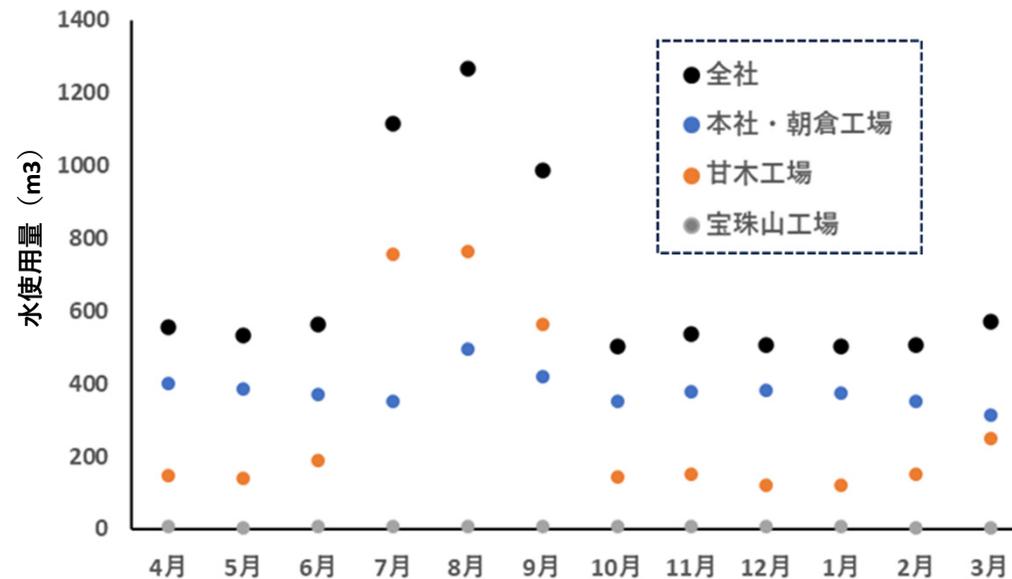
## 水使用量

### 【1】使用量を抑制する

	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
スプリンクラー作動時間を気温に応じて変動させる	○	○	○
節水の呼び掛けを継続する	○	○	○
月々の使用量を監視して漏水などを早期発見	○	○	○



各工場が占める水使用量割合



工場別1か月ごとの水使用量推移

工場別1か月ごとの水使用量

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全社	m3	554	531	565	1,116	1,266	987	501	535	507	501	508	570	8,142
本社朝倉		399	387	370	352	495	419	352	379	381	373	353	314	4,575
甘木		149	139	188	757	764	562	142	150	120	122	151	251	3,495
宝珠山		6	5	7	7	7	6	7	6	6	6	4	5	72

# 5. 環境経営計画と実施状況：廃棄物の排出量

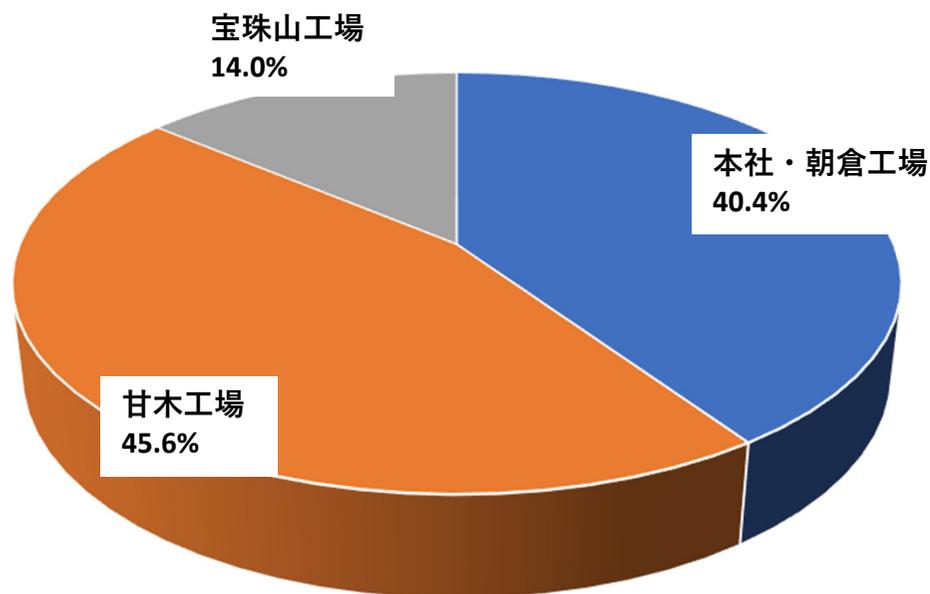
## 廃棄物の排出量

### 【1】不良品削減

	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
品質改善活動継続	○	○	○
※ 部門ごとの改善活動にて取り組む			

### 【2】端材排出量削減

	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
最適カット寸法で端材の削減	○	○	○
芯材構成の見直しで端材削減	○	○	○
リターンシート活用による梱包材削減	○	○	
端材回収業者の活用で焼却削減	○	○	○
産廃処理内容の見直しで削減案を抽出検討する	○	○	○

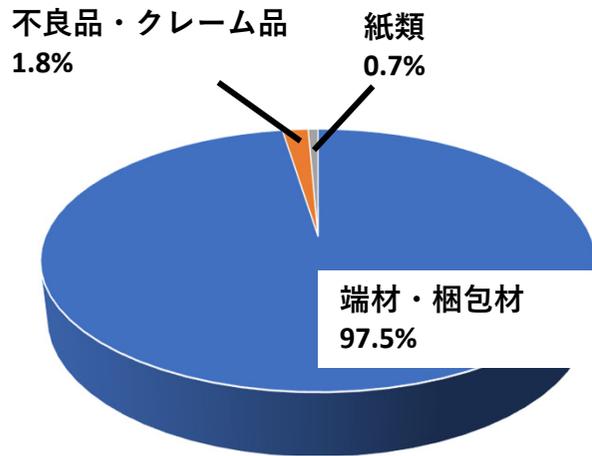


各工場が占める廃棄物排出量の割合

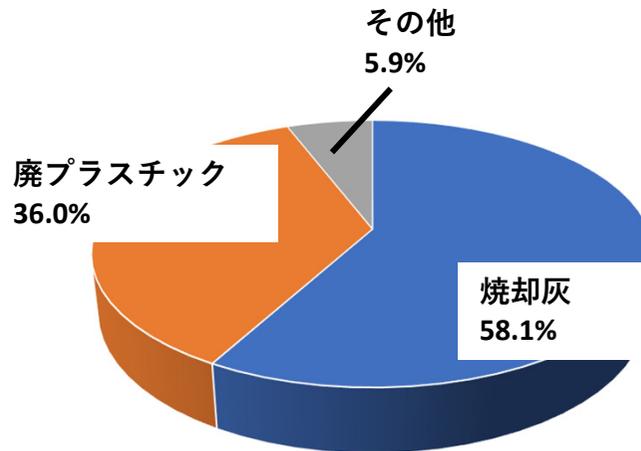
### 工場別の年間廃棄物発生量と内訳

	単位	単純焼却	産廃処理	リサイクル	合計
全社	kg	662,710	114,934	10,777	788,422
本社朝倉		294,443	15,233	9,237	318,913
甘木		316,959	42,462	410	359,830
宝珠山		51,309	57,239	1,130	109,678

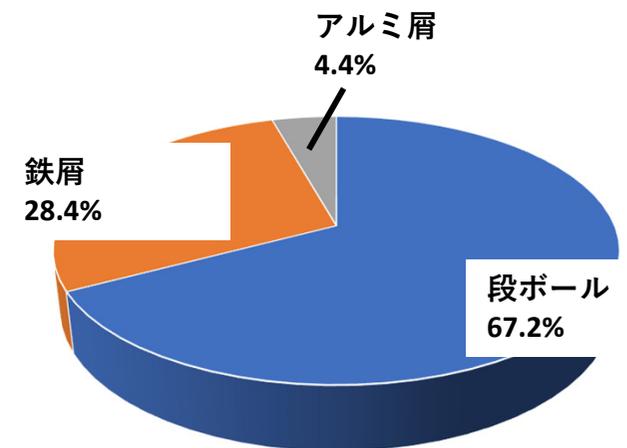
# 5. 環境経営計画と実施状況：廃棄物の排出量



左：単純焼却内訳



中：産廃処理内訳



右：リサイクル内訳

## 廃棄物発生量の低減努力

**ハイム様 梱包作業ポイント表(引戸)**

仕上げ時の確認事項	梱包時の確認事項
<p>ビスが3本取付けているか確認</p> <p>スリーブ着け</p> <p>引手</p> <p>引手の隙は継ぎ加工がある。</p> <p>ビスの取付けビスが全本取付けているか確認</p> <p>ビスの取付け位置</p>	<p>必ず下側から見て右側に引手がある位置を確認してビニールで巻く</p> <p>下側に黄色テープを巻く</p> <p>梱包ラベルは下側から1600mm</p>

**プログラム早見表**

プログラム名	プログラム番号	加工名称	ドアラベル画像	加工図	金物画像
DI-A	361	ラクラククローズ			
EIDAI	362	FM・簡易B			
EI-FMW	363	両側FM			
EI-RAIL	380	下側溝			

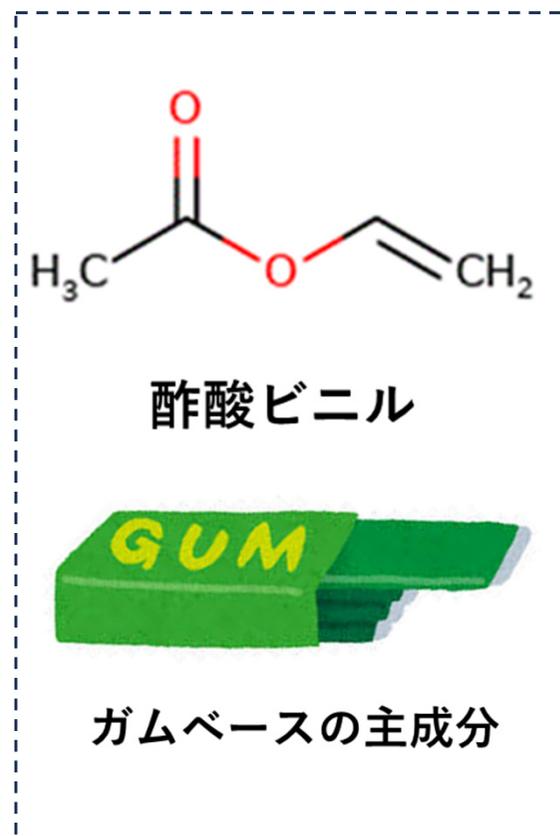
工場内「見える化」一例

## 5. 環境経営計画と実施状況：化学物質使用量

### 化学物質使用量

【1】適正管理と代替品検討	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
新商品の情報が常に入ってくるように仕組化	○	○	
購入量の管理と変動の推移を監視する	○	○	
新規取扱商品のSDS入手により含有物管理	○	○	

ボンドサイレックスクリヤー 120ml	43.2	L
アルテコスプレープライマー 420ml	27.7	L
ボンド ウルトラ多用途SUクリヤー 120ml	21.6	L
コニシボンド CX-50 1000kg	5,000.0	kg
アイメルト W-7 クイック 15kg	1,575.0	kg
アイメルト W-1N 15kg	675.0	kg
コニシボンド CX-50 20kg	500.0	kg
コニシボンド CX-70A 20kg	500.0	kg
アイメルト W-32 クイック 15kg	255.0	kg
コニシボンド CV6205H 20kg	200.0	kg
エバーグリップ WW533-1 15kg	150.0	kg
インスターKV-525 20kg	120.0	kg
UコートマットTXF-1240 15分消 (A) 16kg	112.0	kg
アイメルトW-39 15kg	75.0	kg
シンコーボンド VP-571 20kg	60.0	kg



(1) ・SDS. 「酢酸ビニル SDS」

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen/gmsds/108-05-4.html> (参照2024.06.28)

# 5. 環境経営計画と実施状況：グリーン購入

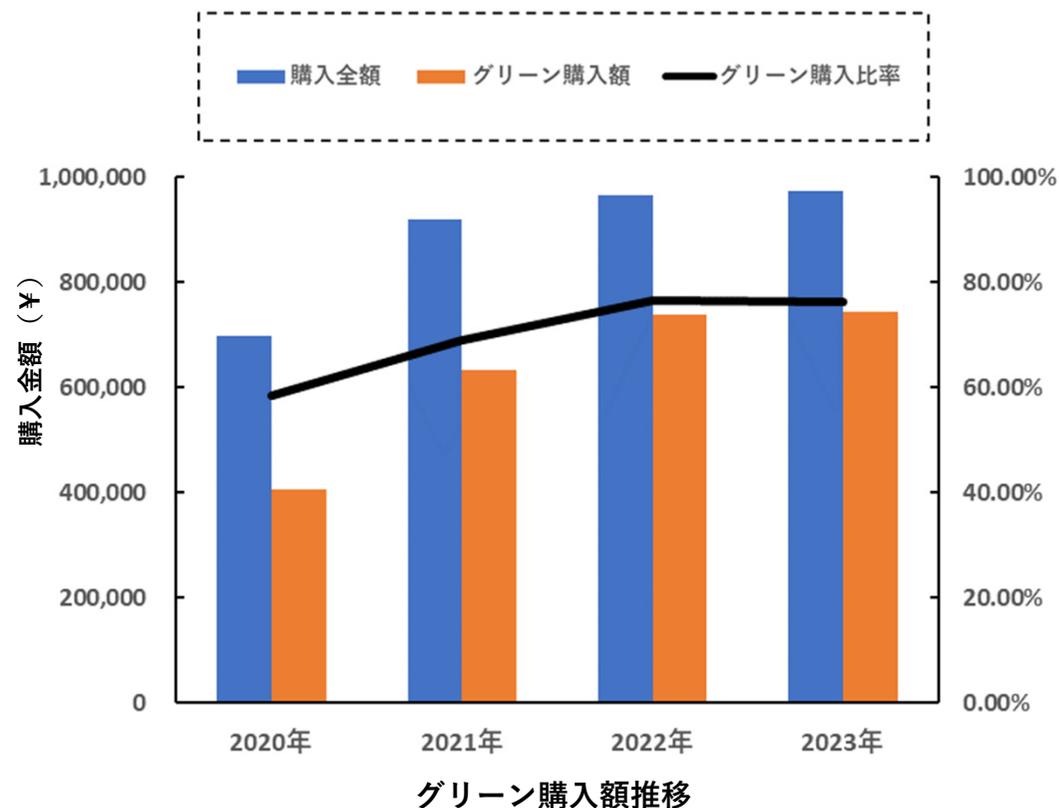
## グリーン購入

### 【1】購入比率向上

	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
購入比率の管理	○	○	○
購入先を比較検討しながら発注する	○	○	○
新規発注品がある場合は数点を比較検討する	○	○	○



グリーン・エコ商品一例



年度毎のグリーン購入額

	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
購入全額	¥	697,009	918,279	964,537	973,049
グリーン購入額		407,002	633,932	738,783	743,387
グリーン購入比率		58.4%	69.0%	76.0%	76.4%

(1) ・キングジム株式会社. 「「テプラ」Proテープカートリッジ」.  
<https://www.kingjim.co.jp/products/tepra/pro-cartridge.html> (参照2024.06.30)

(2) ・ゼブラ株式会社. 「マッキー ケア 極細つめ替えタイプ」  
<https://www.zebra.co.jp/pro/detail/mackee-care/> (参照2024.07.02)

# 5. 環境経営計画と実施状況：自らが生産・販売・提供する製品及びサービス

## 地域貢献

【1】再生資材積極活用 【2】地域貢献

	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
環境に配慮した資材を常に意識する	○	○	○
会社周辺の定期的な清掃活動の継続	○	○	○
体験入学の随時受入れを実施	○	○	○
地元小学校への図書券寄贈	○	○	○

【1】購入比率向上

	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
購入比率の管理	○	○	○
購入先を比較検討しながら発注する	○	○	○
新規発注品がある場合は数点を比較検討する	○	○	○



左下：地域清掃活動 右：中学生の職場体験

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

#### ◆ 排出量削減 … 評価 ○

- 電力の使用量は毎年計画の範囲内に収まっており、順調に削減が進んでいる。  
特に「作業の見える化」を通し、作業効率が大きく向上したことが要因であると思われる。
- 化石燃料の使用量については、今年度の目標を達成できていなかった。
- 二酸化炭素排出量全体は、毎年順調に目標値を達成することができている。

### 2. 水使用量の削減

#### ◆ 使用量削減 … 評価 △

- 今年度の夏期は酷暑のため水使用量が大きく増加した  
甘木工場では特に使用量が高く、今後は対応を考えていかなければならない。
- 工場屋根へのスプリンクラー散水を始める時期に事前点検を実施し、漏水等による水の無駄遣いが発生していないことを確認した。

### 3. 廃棄物排出量の削減

#### ◆ 排出量削減 … 評価 ×

- 端材の引取り業者選定から実施まで進められた部分は良かったと思われる。
- 生産量に対する廃棄物の割合は減ってきたが、それ以上に生産が増えたので排出量増加となった。
- 廃棄物の再生利用を更に検討して実施していかなければ削減目標を達成することはできない。

### 4. 化学物質使用量削減

#### ◆ 適正使用 … 評価 ○

- 既存の化学物質含有製品の使用は減少傾向にある。低環境負荷の代替品が有る場合は積極的な変更を進めている。  
その成果の1つとして、甘木工場ではジクロロメタンを含む接着剤の使用量が半減した。
- 化学物質のリスクアセスメントは継続して実施していかなければいけない。
- 新規製品が立ち上がる際には、どのような資材が必要なのか確認して、化学物質を含有しないものか含有量の少ないものを選定するようにした。

## 6. 環境経営計画の取組結果に対する評価

### 5. グリーン購入

#### ◆ 購入比率の維持 … 評価 ○

- 購買先を増やし比較検討の幅を広げた効果が、購入比率アップに繋がっている。
- 更に購入比率を上げるためにも、新しい情報を積極的に収集していく。

### 6. 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス

#### ◆ 再生資材の積極採用 … 評価 △

- 再資源化事業も進みつつあるが、拡販にまでは至らず足踏み状態である。
- 社外からの廃棄材を加工して、製品の基幹部材に利用する商品開発が進んできた。

#### ◆ 地域への貢献活動 … 評価 ○

- 地元小学校や図書館への図書券寄贈を継続して実施している。
- 中学校からの職場体験を実施している。
- 工場周辺の定期的な清掃と、周辺農道などの草刈りを継続して実施している。

## 6. 環境経営計画の取組結果に対する評価：法令順守状況

### 対象となる環境関連法令と遵守状況

株式会社オークマ 2023年度

環境関連法規	適用内容		適用工場			遵守状況
			朝倉	甘木	宝珠山	
大気汚染防止法	ボイラー施設	測定義務	○	—	—	○
		報告義務	○	—	—	○
ダイオキシン類	焼却炉	測定義務	○	○	○	○
対策特別措置法		報告義務	○	○	○	○
廃棄物処理法	作業廃棄物の保管基準		○	○	○	○
	管理票の交付、写しの保管		○	○	○	○
	管理票の交付等の状況報告		○	○	○	○
化管法(PRTR法)	指定化学物質の排出量等の把握及び届出		○	○	○	○
労働安全衛生法	有機溶剤	作業環境測定	○	○	—	○
		リスクアセスメント	○	○	—	○
		健康診断	○	○	○	○
消防法	危険物貯蔵所	届出義務	○	○	○	○
フロン排出抑制法	簡易点検	保存義務	○	○	○	○
浄化槽法	浄化槽	点検	—	○	○	○

#### 【違反・訴訟等】

上表の法規制について確認した結果、全ての適用法令を遵守しており、関係機関等からの違法の指摘も無く、訴訟等もありません。

## 7. 次年度の目標

### 環境経営目標(中期2024～2026目標及び2024年度目標)

項目	評価 単位	2023年度 (基準値換算)	2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標
【1】 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	1,697,609	1,680,633	1,663,657	1,646,681
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【2】 水使用量の削減	m3	778	770	762	754
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【3】 廃棄物排出量の削減	ton	8142	8060	7979	7897
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【4】 化学物質使用量削減	kg		❖ 化学物質含有量の少ない代替品への変更を積極的に進めていく		
【5】 グリーン購入	品目		❖ 発注先を複数にして検討品目の幅を広げる	❖ 発注先を複数にして検討品目の幅を広げる	❖ 発注先を複数にして検討品目の幅を広げる
【6】 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス			❖ 設計時の資材構成を常に見直す ❖ 地域貢献活動の継続	❖ 設計時の資材構成を常に見直す ❖ 地域貢献活動の継続	❖ 設計時の資材構成を常に見直す ❖ 地域貢献活動の継続

※2015年度よりCO2換算係数の変更(調整後排出係数=0.598kg-CO2/kWh 九州電力2014年度実績)

作成日：2024年4月1日  
代表取締役社長 大隈 賢一郎

### 代表者による全体評価と見直し及び指示

#### ■環境経営方針

環境経営マネジメントシステムは、有効に機能していると思われる。仕事量が少ない中、あらゆる改善活動を社内で推進しているが、環境改善に向けた活動にも、もう少し力をいれたらどうか。EA21やSBT活動の状況は、数値だけを見れば順調に推移しているように感じるが、具体性にはまだまだ足りないような気がします。2030年度を基準として、再度活動の見直しを来期は積極的に取り組んでもらいたい。

#### ■環境経営目標及び環境経営計画

各工場とも、環境経営目標及びその計画と実績に目立った乖離が少なくなってきたおり、各推進員の計画立案に安定感がでてきている。ただ、温暖化による気候上昇に対し、水使用量の計画立案には作業環境も踏まえ慎重に検討してもらいたい。今期は、電力使用量単価やガソリン等の単価アップが予定され、更に仕事量も前期と比べ増加が見込まれている。EA21活動のマンネリ化も止む得ないが、生産が増えても電力使用量を抑える電力生産性の効率化に向け、来期は全工場前向きに取り組んでもらいたい。

#### ■実施体制

今すぐに現行実施体制を修正・変更する必要はないと思うが、次代を見据えた体制の再構築も並行して進めていくべきだと考えます。活動自体が少々マンネリ傾向になってきていることから、環境の変化にスピードをもって対応でき得る体制づくりを進めてもらいたい。